



ラボ番号:
患者名:
ID:
性別:
年齢:

クライアント: 30131
医師名:
Detox Co., Ltd.
2-6-6 Numabukuro Nakano-Ku
Tokyo, 165-0025 JAPAN

Yeast Profile, stool

細菌培養の結果

良性細菌叢	境界性細菌叢	悪性細菌叢
N/A Bacteroides fragilis group	not ordered	
N/A Bifidobacterium spp.		
N/A Escherichia coli		
N/A Lactobacillus spp.		
N/A Enterococcus spp.		
NG Clostridium spp.		
NG = No Growth		

細菌学的な情報

Expected (Beneficial) bacteria (良性細菌):健康的で均衡のとれた消化管では、良性細菌は総細菌叢の無視できない一角を占めます。これらの良性細菌群には、ビタミン製造、食物繊維の発酵、タンパク質と炭水化物の消化、そして抗腫瘍因子や抗炎症因子の伝播を含む消化管内の健康防御作用があります。

クロストリジウム属は健康的な胃腸に普通に存在する細菌叢を構成します。クロストリジウム菌は、その他の良性細菌とのバランスで考えられなければなりません。クロストリジウム菌類が存在しなかったり、その他の良性細菌叢の構成細菌が多量にありすぎたりすると、細菌の不均衡が起きます。もしクロストリジウムデフィシル菌の疾患が疑われるのならば、**A&B 毒素検査**が推奨されます。もし完全にクロストリジウム属のどれであるかを特定することが推奨されるのならば、包括的なクロストリジウム菌培養 (**Comprehensive Clostridium Culture**)を勧めます。

Commensal (Imbalanced) bacteria (境界性細菌)は通常は宿主の消化管に対して病原性であるか或は恩恵を与えてくれるかのどちらかです。良性細菌の濃度が不十分で、境界性細菌濃度が増加した時、不均衡が起きます。境界性細菌の中には高濃度で悪性を示す物が報告されています。

Dysbiotic bacteria (悪性細菌)はよく知られた病原性細菌からなり、消化管で疾病を引き起こす能力を持っています。汚染された水や食品を消費したり、良性細菌にとって毒性のある化学物質に暴露する;抗生物質の使用、経口避妊薬やその他の薬剤の使用;食物繊維の摂取量が少なかったり、高ストレス下にさらされる;などを含む様々な要因によってこれら悪性細菌が存在することがあります。

イーストの培養

Normal flora (通常真菌叢)	Dysbiotic flora (悪性真菌叢)
1+ Rhodotorula glutinis/mucilaginosa	

顕微鏡検査によるイースト

判定結果: Few 理想値: None - Rare

便中イーストの顕微鏡検査は、イーストの増殖を確認するのに役に立つ検査です。**Rare** 判定は、正常ですが、**few**、**moderate**、或は **many** は異常です。

イースト情報

Yeast (イースト)は通常は少量皮膚、口腔、腸、そして皮膚粘膜接合部に見いだされます。イーストの過成長によって理論的にはすべての組織臓器に感染可能です。そして感染すると様々な臨床兆候が見られます。真菌性下痢は、広範囲の抗生物質使用或は患者の免疫状態の広範囲な変性と関係してきます。そしてその症状には腹痛、筋けいれん、そして刺激過敏が含まれます。イーストの存在を調べるとき、培養と顕微鏡検査での結果とは不一致があるかもしれません。イーストは便中に一様に分散している訳では無いからです。このことによって顕微鏡では検出できなかったりごく微量であったりしたのが培養では十分な量のイーストが検出されることがあります。逆に、顕微鏡検査では相当量のイーストが存在するにもかかわらず、全く培養されないこともあります。イーストは消化管を通過する際必ずしも生存して通過する訳ではないので検出されないこともあります。

コメント:

検体採取日:
検体受託日:
検査完了日:

v5.09